

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和8年4月14日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立後地小学校

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった 課題と学力向上に向けた取組【国語科】

1 定着状況についての概要

＜平均正答率の比較＞ 学校平均－目標値が、+5 以上…◎、+4.9～0…○。－…△

2 年			3 年			4 年			5 年			6 年		
全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用
◎	○	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎

- ・基礎、活用共に全学年で目標値を上回っている。
- ・5年生以上の学年で、「読むこと」の領域の正答率が高く、目標値を10ポイント以上上回っている。低学年からの学習の積み重ねが結果につながっていると考えられる。
- ・4年生以上の学年は全ての項目で目標値を上回っている。

2 具体的な課題

- ① 3年生では、「書くこと」の領域の正答率が目標値を4%下回っていること。
- ② 2年生では、「情報の扱い方に関する事項」の領域の正答率が目標値を下回っていること。

3 課題の原因として考えられること

- ① タブレットを活用した学習をする機会が増えており、ノートに考えを記述したり、文字を書いたりする習慣が減っている。
- ② 共通点や相違点を比較したり、順序や関係性を明らかにしたりするなど、情報を結び付けて考える学習内容が十分に定着していない。そのため、情報を結びつけて深く理解する力を十分に発揮できていない状態にある。

4 課題解決のための方策（取組指標）

- ① 全学年で書く機会を確保するとともに、書く目的や相手を意識した言語活動を充実させる。また、文章構成や表現の型を示し、書く前の対話や書いた後の交流・推敲を取り入れることで、児童が自信をもって表現できる力を育成し、教科横断的にも書く活動を継続的に推進する。
- ② 「情報の扱い方に関する事項」の領域の学習を行う際には、どのような視点で情報を整理するのかを明示し、児童自身が情報を実際に比較したり分類したりする学習活動を設定する。

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった 課題と学力向上に向けた取組【社会科】

1 定着状況についての概要

＜平均正答率の比較＞ 学校平均－目標値が、+5以上…◎、+4.9～0…○。－…△

4 年			5 年			6 年		
全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用
◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

- ・ 5、6年生は全ての項目で目標値を上回っている。良好な結果と言える。
- ・ 5年生は基礎・活用、6年生は活用で目標値を10ポイント以上上回る結果となった。

2 具体的な課題

- ① 4年生では、記述で解答を問われる問題の正答率が平均並みという結果だった。
- ② 4、6年生では、一部正答率が低位層に集まっており、高い児童と低い児童に分かれる二極化の傾向が見られる。

3 課題の原因として考えられること

- ① 基礎的な内容について、反復学習を通して知識の定着を図る機会が不足している。
- ② 学んだ内容を自分の言葉でまとめる等の活動を苦手としている児童がいる。

4 課題解決のための方策（取組指標）

- ① 毎時間や単元の終わりに学習アプリを活用した復習問題に取り組んだりすることで、基礎・基本的な知識の定着を図る。
- ② 調べた内容から導き出した自分の考えをペアやグループで共有する機会を増やし、その後、再度自分の考えを振り返る活動を設定することで、学びを深めるプロセスを意図的に促進する。

令和 8 年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった 課題と学力向上に向けた取組【算数科】

1 定着状況についての概要

＜平均正答率の比較＞ 学校平均－目標値が、+5 以上…◎、+4.9～0…○。－…△

2 年			3 年			4 年			5 年			6 年		
全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用
◎	◎	◎	△	△	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

- ・全学年で活用問題において目標値を上回る良好な結果となった。
- ・第 4 学年以上においては、教科全体・基礎・活用の項目で目標値を 5 ポイント以上上回っている。
- ・全ての学年で、基礎問題が活用問題よりも正答率の方が高い傾向が見られる。

2 具体的な課題

- ① 6 年生以外の 4 学年においては、図形問題のみ正答率が目標値を下回っている。
- ② どの学年においても、記述式の活用問題の正答率を上げることが算数のさらなる学力向上の課題である。

3 課題の原因として考えられること

- ① 図形の単元については、各図形の性質について理解する前に求積公式等の暗記をしている児童が多いため、直近のテストには対応できるが長い期間での定着が難しいのかと考えられる。
- ② 単元終わりのカラーテストにおいて、応用的な問題を記述で答えることが少ないため、児童が自分の考えを表現し学んだことを言語化する活動が不足しており、価値づけがされていない。

4 課題解決のための方策（取組指標）

- ① 習熟度別クラスであるが、まず基礎・基本の定着を引き続き行いながら算数の土台となる計算力を築く。そして発展学習を行うクラスにおいては、応用的な問題の答えだけではなくそこに至る考え方を説明できるように価値づけていく。
- ② 図形の単元において、公式を覚えることだけでなく、作図や図形を手に取り操作する機会を増やし、求積公式にいたるまでの深い理解ができるように授業を展開する。
- ③ 授業内で、児童が自分の考えを式・図・言葉で表現する活動を増やす。そのために児童が安心して意見を言える授業展開をする。また、気づきや疑問を言語化できるための補助として解答例の紹介やキーワードの記載されたワークシートの用意をするなど意見を表現するためのハードルを下げる。

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった 課題と学力向上に向けた取組【理科】

1 定着状況についての概要

＜平均正答率の比較＞ 学校平均－目標値が、+5以上…◎、+4.9～0…○。－…△

4 年			5 年			6 年		
全体	基礎	活用	全体	基礎	活用	全体	基礎	活用
◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○

・どの学年も全ての項目で目標値を上回り、良好な結果と言える。

2 具体的な課題

- ① 5年生は、記述形式の正答率が目標値と比べて-6と低い数値になっている。
- ② 6年生は、「物質・エネルギー」領域での正答率が低い。

3 課題の原因として考えられること

- ① 基礎的な内容について、反復学習を通して知識の定着を図る機会が不足している。
- ② 実験や活動を通して学習したことと、学習内容を結び付けることが十分にできていない。

4 課題解決のための方策（取組指標）

- ① プリントやiPadのアプリなどを活用し、基礎・基本的な知識の定着を図る。また、単元開始時には前学年の学習内容を振り返る活動を行い、系統性を意識した学びを進めることを推進する。
- ② 単元の後半では、日常生活に関連した課題解決型の学習を導入し、学んだ内容を活用する力を育てる。

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった 課題と学力向上に向けた取組【英語科】

1 定着状況についての概要

＜平均正答率の比較＞ 学校平均－目標値が、+5 以上…◎、+4.9～0…○。－…△

6 年		
全体	基礎	活用
◎	◎	◎

- ・全ての項目で目標値を上回っている。良好な結果と言える。
- ・9割以上の児童が目標値を上回る結果になっていて、低学年からのALT、中学年からのJTEを活用した英語学習と系統的な指導による成果が見られる。

2 具体的な課題

- ① 道案内をする場面の対話を聞き、具体的な情報を聞き取る問題の正答率が低い。
- ② 短い物語を聞き、話の概要を捉える問題の正答率が低い。

3 課題の原因として考えられること

- ① 既習の単語や表現は理解できても、それらをつなげて物語全体の流れを捉える力が十分に身に付いていない。
- ② 一語一句聞き取ろうとしてしまい、話の中心となる情報や場面の变化に着目しながら聞くことができていない。

4 課題解決のための方策（取組指標）

- ① 聞き取った内容をメモしたり、当てはまる情報にチェックを付けたりしながら聞き取るなど、情報を把握するための方法について指導を行う。
- ② 授業の中で、短い物語や対話を繰り返し聞く活動を取り入れ、概要を捉える経験を積み重ねる。